



奈良県自閉症協会 NEWS

きずな

The Kizuna

No. 158

2011 JUL 7

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

発行人:

関西障害者定期刊行物協会

編集人: 奈良県自閉症協会

支部長&事務局: 河村舟二

〒639-1005

大和郡山市矢田山町 84-10

購読料1部 100円

会員は会費に含まれています。

一九九六年五月一日発行第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)日発行

7月3日弘済会館(東京)で社団法人日本自閉症協会の理事による役員選考会が行われた。今回、自薦他薦による会長候補2名副会長4名の立候補者が出たため、社団法人日本自閉症協会初めての役員選挙となり、次の人が選ばれ、新理事着任の7月8日をもって次の新役員による三役執行部体制が決定した。会長…山崎晃資(やまざきこうすけ)73歳、副会長…市川宏伸(いちかわひろのぶ)66歳、五十嵐康郎(いがらしやすろう)64歳、新保文彦(しんぼふみひこ)55歳、の3名。常務理事…山浦正市(やまうらしょういち)61歳(敬称略)です。○石井哲夫前会長の役員選考会での退任挨拶

今回の会合は現在の会長である私が招集した。社会情勢の急転する中で災害が起こり、また世界自閉症啓発デーも急遽延期され、先般テーマを変えシンポジウムを行ったが、その際に痛感したのは、「まだまだ自閉症についての我が国の対応がきわめて不十分である」ということである。私はこれで退任するのであるが、今回のこの困難な状況を打開するために働ける、強力な執行部をぜひ創っていただきたいと願う。

現在、政治・行政のいろいろ動きが激しくなっており、すでに障害者差別禁止法などは成立したが、まだ

障害者総合福祉法の成立はみない状態である。しかも、障害者基本法の改訂については、内容を検討すると、最初の障害者基本法の制定時に於いて、当時の親の会の須田さん達が熱心に障害名の明記をせまったわけである。それにより、障害者基本法の付帯事項に「自閉症・てんかん・難病等」の文字が出たのである。そこには、身体障害・知的障害・精神障害と同様に、きちんと対処するということが書かれているにもかかわらず、発達障害者支援法までがさしたることなく、いちおう施設も出来、予算もできたが、予算の配分が十分でない。また、その活動が停滞している状況である。

この機会に、自閉症という、人間関係が大変難しい特性を社会にどうしたら啓発できるか。障害の種類ということにおいて、発達障害にくくられていいのか。を今一度考えて欲しい。私はこのことで大変苦慮している。ぜひそこで、皆さんの専門性を導入して欲しいと思う。全国自閉症児者施設協議会、自閉症スペクトラム学会、日本発達障害ネットワーク(JDD)などと協力して、自閉症に特化した政策を一步でも進めるようにして行かなければならないと思う。特に最近、高機能の本人発言、本人グループ活動が行われるようになり、とかく親に対する批判的言動が見られるようになってきた。本協

会は親の会から発足し、支援者を交えて社団法人として自閉症児者支援というものを行っているが、実情は親の会としての会員が大多数を占めている。私が会長就任時にも言ったが、親と支援者が大同団結して、「発言できない本人の心中を理解し、代弁出来る当事者として社会活動を展開していくこと」を再度強調したい。そのためには今日の選考結果はどうかであろうと、新会長の下で一致大同団結して頂きたい。そして、社会に開かれた、多くの支援者が加入できる様なインクルーシブな協会として発展して欲しいと願っている。在任中は多くの方々にご迷惑をかけご理解とご協力いただいたことに感謝したい。私は退任後も、元気のあるうちは、さらに、自閉症の人たちのために支援を行っていきたい。

○山崎晃資、新会長の所信表明から1. 協会のあるべき姿について: 日本自閉症協会の前身は昭和42年に発足した自閉症親の会であり昭和43年には全国組織としての自閉症児者親の会全国協議会が設立されました。平成元年に社団法人日本自閉症協会の認可を受けて現在に至っている。この約45年間の間に本協会をめぐる状況はめまぐるしく変化し、いくつかの法案が可決され、障害者基本法案の国会審議も最終段階に入っています。このような急激な変化に本協会はいかに対応し、会員

の方々の要望にいかに応えるのが求められています。いかに多くの先輩方がまさに血のにじむような努力をしながら、営々として積み重ねられてきた本協会の基本的な考え方を尊重しながらも、近未来的な新たな方向を模索しなければならない大きな転換点に来ている。昨年10月に開催された都道府県政令指定都市役員連絡会での討論のまとめとして、私は感想と意見を述べ、それは愛し子125号に掲載されている。そのポイントは、

1. 本協会の原点と言える当事者性の問題。
2. 本部事務局のありかた。
3. 関連する諸団体との連携。
4. 協会には未来はあるのかという根源的な問題。
5. 親亡き後の問題。
6. 高機能自閉症やアスペルガー症候群の人たちへの対応。

に多様な選択肢を用意しておくことが不可欠です。自閉症の人々に係わる私たちは、様々な思いをもっています。特別支援教育、インクルージョン、権利擁護代弁、障害者権利条約など早急に検討すべき課題がありますが、会員の中にはそれぞれに多様な考え方があり理念と現実のギャップに、常に悩まされ続けております。様々な制度が作られても、その実態は極めて不十分なものが多々ある。私たちは、実りある建設的な議論を活発に行いながら、実行力に富んだ提言をしつづけなければならない。第3に障害者制度改革推進会議および総合福祉部会の試案が強力に進められており、障害者基本法案の審議も最終段階に入りました。それに伴って各政党のヒヤリングも頻繁に行われるようになり、さらに先日行われた世界自閉症啓発デー2011シンポジウム「災害と自閉

7. 通所施設や入所対応選択肢多様性の確保。

8. 災害時の避難所における自閉症児者の人々への対応の確保。である。とくに8は3.11の東日本大震災で現実の問題となり、来るべき東南海大地震を視野に入れた早急な対策づくりが急務となっている。私は昨年来の役員連絡会を契機に、可能な限り、情報をメーリングリストに送り、多くの役員の方々から、さまざまな意見を伺い、さらに、診療の場でお会い、多くの当事者やそのご家族の方々から、生活の厳しさと要望を聴き、今後の協会のあり方について考えてきた。いま、本協会の発展のためには、より発展的な活動を主体的に行うことが求められているし、特に理事の皆様には協会の運営の当事者として種々の難関に立ち向かっていただきたい。ここで再度、次の5点について考えを述べる。第1に本

症」を契機として、発達障害を考える議員連盟の勉強会や、国会議員自閉症勉強会が開催され災害時の対応が検討されるようになった。このような状況の変化に対して迅速に対応し、本協会に対し意見を述べるのが極めて重要です。会員の中には優れた専門性と知識を持つ方々が多いと思います。理事・代議員に限らず会員から広く人材を求め、英知を結集して課題ごとにある種のシンクタンクを立ち上げることも早急に検討する必要があります。そして公の委員会、会議体に社団法人日本自閉症協会として、メンバーを送り込む努力をしつづけていかなければならない。第4に、世界自閉症啓発デーのシンポジウムの継続と国際化について。昨年一年間をかけて準備してきた2011シンポジウム「私たちの育ちを信じて愛して」は東日本大震災の影響を受けて延期となっ

協会の原点は、まさに当事者性であり、それが職能団体と異なるポイントです。私が考える当事者性とは当事者である自閉症の人々の意見を尊重しながら、自閉症の人々の幸せを守るという一点にかけて、自閉症の人々その保護者および家族、さらに、教育・医療・福祉などに係わる専門家など、自閉症に係わる全ての者がもたなければならない志であると理解しています。

世界自閉症啓発デーに寄せられた、潘基文（パンギムン）国連事務総長のメッセージに込められた自閉症の人々とその家族および関係者への熱い思いを改めて思い出していただきたい。この問題は本協会定款第1章第3条にある目的と関連することです。公営公益法人化に向けた定款の改定に向けて是非、議論すべき事柄です。第2に自閉症の人々がそれぞれの暮らし方を達成できるよう

た。このように4月に入って連絡事情や来年度のシンポジウムの準備などを考え、厚労省の担当者と協議をした結果、6月18日に急遽「災害と自閉症～共に支え合い、共に生きる～」とプログラムも入れ替えた。わずか2ヶ月間の準備期間しかなかったが、被災者の皆様支援者の皆様の協力と共催関連団体の協力でのべ400名の参加があり成功裡に終わった。厚労省都の協議では10月に入り2012シンポジウムの準備に取りかかる予定である。来年こそは、かねてから参加したいという強い要望のあるアジア諸国の自閉症協会に呼びかけ、まさに世界自閉症啓発デーとしての催しを考えている。本協会も国際的な視野に立って、アジアのリーダーとしての活動が求められている。第5に協会として行うべき課題は急増しているが、それに合う財源をどう確保するのも緊急の

課題である。会員数の減少や、各種補助金の減額によって協会の財政は厳しい状況にあり事務局運営の効率化、経費の削減、加入数の増加などを急がなくてはならない。○本協会の財政を立て直す必要がある。急速に状況が変化しつつある中で、本協会が如何に機能し効率よく組織を整えるのかは重要な課題です。新しい体制を整えるに当たって検討すべき課題を列举すると、第1に、事務局体制の立て直し、これまでも努力はされてきたが、公益法人化を考えて私が考える新たな課題を達成するには相当の覚悟をもって立て直しを図らなくてはなりません。もちろん会員数の増加は急務、わたしは、仮称総務委員会を立ち上げ、事務局と密接な連携を諮りながら効率よい事務局運営が行われるようにすべきと考える。第2に現在の部会委員会を再編成して、委員会に統一し委員会活

動が活性化するようにしたい。委員会の構成と運営の仕方については私案があるが、今は省略します。ただ、本協会の定款および内規には研究部員の選任に関する記載の他には委員会活動に関する明確な記載はなく、組織等検討委員会等をはじめとする各部会委員会報告が理事会総会議事録に記載されているのみであった。今後理事会常任理事会で検討すべきことである。第3に会員数の増加を図ることである。それには協会が自閉症に係わる人々にとって魅力的な存在になることが必ずの課題である。その上で1、日本自閉症協会のポスターを作成し、臨床教育相談機関に張り出し、入会案内を配布する。2、かつて会員だった方々に本協会の現状を説明し再入会をお願いする。3、自閉症を担当している関連諸機関の専門家に入会を勧める。などの努力をしたい。そのため、私は皆様のご

支援を得て自閉症の人々の 幸せのために、社団法人日本自閉症の発展のために最善の努力をする所存である。

○市川宏伸、副会長の所信表明

私の子どもが言語のない自閉症のため、今から30年前以上前に入会した。私の印象としては、30年前の自閉症協会は光り輝いていた。現在、今は「かがやき」という本はあるが、活動の内容は今ひとつで残念である。そうになっているのは、一つには、現在の政府・国の福祉施策がころころ変わるのであり、政権が変わると大幅に変更してしまったり、また、なされつつある。今後も政権がどうなるかは全く定かではなく、この際、臨機応変に対応して行かないと社会の流れに取り残される。協会がこの臨機応変さをもっと持つべきである。また、自閉症協会の各支部の会員の皆様が協会に期待

することが時代と共に大きく変わってきており、多様化している。強固な協会の存在が是非必要である。「よくやってくれている」と感じられるようになるべきである。執行部では情報収集をもっときちとやっていく。協会の会員の中の意見を協会執行部が感じているか。たとえば一つ、自閉症施設は重要な存在であるが、果たして全体の会員に自閉症施設を充実させろという意見を出しているのか、疑問を感じる。さらに、自閉症と発達障害を対立的に置いていいのかということである。この考え方は無理な問題である。現在、発達障害の中心が自閉症であること。広い意味での自閉症であることは何人も認めている。私は現在JDDの代表として実践している。やり方システムを考えて、これからの協会は、運営や方針をもっとクリアーでオープンなもので、わ

かりやすくして行かなければならない。そのことは、逆に言えば会員の方々に協会の方針をわかりやすく説明する。あるいは公開していくということであり、このことが日本自閉症協会の存在感を高め強めることに繋がるのではと考える。

理事会でもっと議論をおこなって欲しい。時の流れで、今、公益か一般社団法人化か決める時であるが、このような決定は、これからは、これまでの総会ではなく、代議員会が最高の決定機関となる。理事会の意見が執行部に反映されるような方向をより求めていかなければならない。私は20数年前に知的障害者施設を創ったが、創るさいの反対運動はずざましいものであった。それだけ世の中の偏見は強いのである。障害者団体が大同団結していかないと結局自分たちが不利益を被る。お互い協力し合って行動することが、当

事者・保護者にとって最終的ないい結果をもたらすと考えている。理事の英知を結集して会の方向性をさぐりたい。

○五十嵐康郎、副会長の所信表明

自閉症と私 五十嵐康郎…「自閉症児との出会い」…自閉症児との出会いは、高校3年生の時にボランティアとして訪問した知的障害児施設でした。大人しく席に座っていないこと、指示に従わないこと、勝手に黒板一杯に何匹も、何匹も魚の絵を書き連ねて、その一匹一匹に細かく鱗が描かれていたことが印象的でした。この体験がきっかけとなって福祉の道に進むことを決意しました。

「ひゆうまん運動」

日本福祉大学在学中に水上勉氏の「拝啓池田総理大臣殿」などから、重い障害のある子どもの施設が不足していることを知って、知的障害児

施設を創ろうと思ひ立ち、大学を休学して「ひゆうまん運動」を創設しました。

戦後の知的障害福祉のメッカとして知られていた滋賀県の一麦寮の田村一二先生から「障害のある子どもがいるから、私たちが存在している」すなわち「この子らは世の光」であることを教わりました。同じ滋賀県の止揚学園の福井達雨先生から「自らが差別者であり、差別者として謝り続ける」さらには「差別と闘う」という障害福祉にかかわる基本姿勢を学びました。一麦寮も止揚学園も利用者の大半が自閉症の人でした。

誰もが地域でごくあたり前に暮らせる社会が理想であり、入所施設は障害者差別につながるの考えにいたり、施設創りを断念しました。

「滝乃川学園重度棟」

大学卒業後に田村一二先生の紹介で滝乃川学園児童部に就職し、重い

知的障害を伴う自閉症の子どもを担当することになりました。着任当時の重度棟は20坪ほどの木造の老朽家屋で、入口に鍵をかけ、部分的には二重の鍵を使って子どもたちの生活の全てがその狭い建物の中で行われていました。

重度棟に一步入ると、窓にはベニヤ板が打ち付けられ、夏は棟内が熱気と大小便と汗の織り交ざった異臭で息苦しく、座っているだけで全身から汗が噴出してくるほどでした。冬はストーブが置けないために子どもたちの寝ている横で氷がはるほどでした。畳や壁の至る所に大小便がこびりつき、畳をむしった藁屑が半日ほどで大きなポリバケツ一杯になり、畳はいつもべとべとしていました。毎日厚手のガラスが割られ、壁が剥ぎ取られ、天井板が破られていました。自傷や他害が絶えず、1人の子どものほかの子どもの傷口を引き

裂いたかと思えば、もう1人の子どものは別の子どもの耳を引きちぎって出血している。あちらではまだ治りきらぬ自分の傷口を引きむしっているという状態でした。

便つぼの中に衣類や玩具を投げ込む者、天井裏を走り回る者、どんな破れ目や鍵のかけ忘れも見逃さず、どこへいってしまうか分からない子どもたち、真夜中に全員いなくなって大騒ぎになることもしばしばで、しかも24時拘束、13時間実働勤務という過酷さで、職員が次々と辞めていきました。

「生活改善の取り組み」

まずは、掃除、修繕、布団干し等の環境整備に取り組みました。畳は全部出して、五寸釘、タワシ、雑巾、バケツを持って床板や壁の掃除をしてカーペットを貼りました。ベニヤ板をはがして窓にガラスを入れる。ベニヤ板を買ってきて天井や壁をは

る。一日に何度もはき掃除や拭き掃除をしました。

次にできるだけ多くの時間を重度棟外で過ごすようにしました。2グループに分けて散歩に連れ出したり、手製の教材で訓練したり、お絵かきをしたりしました。遠足や外泊訓練にも積極的に参加しました。そうした取り組みを通して子どもたちが劇的に変わりました。最終的には重度棟を廃止して、鍵のない開放された生活を実現しました。

この経験から、鍵を必要としていたのは自閉症の子どもたちではなく、環境のまずさと支援者の未熟さに原因があると確信し、鍵に頼らない支援が私の信念になりました。「自閉症総合援助センターをめざして」

重度棟で出会った子どもたちが成人し、巣立ちを見送って、一つの区切りがついたこと、若気のいたりか

ら安易な施設否定に走り、施設創りを途中で投げ出してしまったことなどの思いから、東京の自宅を売却して自己資金を確保し、自閉症の人たちの理想的な施設創りに取り組みました。

現在は自閉症総合援助センターとして、自閉症施設を中 JL、に早期療育から、生活支援、就労支援、居宅支援、行動援護、相談支援、普及啓発、専門員養成など、ライフステージを通じた総合的な支援に取り組んでいます。

「決意表明」

このたびは副会長候補にご推挙いただき身に余る光栄です。私ごときが本当にお役に立てるだろうかという思いもありますが、高校時代に自閉症の子どもと出会ってから半世紀近くを自閉症に携わってきた私に与えられた天命として、精一杯頑張らせていただく所存です。

滝乃川学園在職中には、生活見直しや地域での就学を求めて、厚生労働省や東京都とも交渉してきました。また、支援費制度がスタートした折には、早期療育が危機に瀕したことから、児童デイサービスの単価を引き上げるよう、大分県内で3万名の署名を集めて厚生労働省と交渉し、大幅な引き上げを実現しました。現在は全自者協会長として、自閉症支援のあり方について研究、協議すると共に、自閉症の人たちが安心して暮らせる共生社会実現に向けて厚生労働省や各政党に対して懇談や要望活動を行っています。正しいことを主張し続ければ必ず実現するというのが私の信条です。

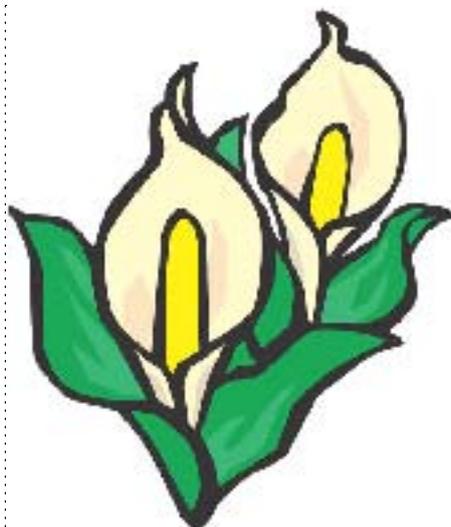
○新保文彦、副会長の所信表明

私は55歳で息子24歳が自閉症で入所施設に通っている。この協会には息子が小学校1年頃、藁をも継る思いで入った。お医者さんと喧々

暮々とやり合ったことを覚えている。これまで、日本自閉症協会長野県支部会長10年関東ブロック理事、昨年は事務局長補佐として働いてきた。私が考える副会長として備えるべき事柄には次の3つがあると考えている。まず1は、ナンバー2としての顔であり、世間にアピールする力量である。2. は、自閉症の専門家としての啓発的な活動が出来るということ。3. には親として、思いを形として残す。実務を担える力量をもつ。ということである。

私が考える実務は「繋ぐ」ということがテーマである。自閉症協会加盟団体と双方向ベースを作る。日本自閉症協会が加盟団体とつながるためのベースをまず創っていくことが大切である。そして、関係団体・メディア・政治・労働の問題と「つなげ」ていく。そのため、自分は営業活動をする事だと考えている。口で言

うのは容易だが、真にこれを実現するには時間かかるが、トライ・アンド・トライで、よりベターな方向を探ることを、理事の協力を得て実践していきたい。 (河村)



平成23年度独立行政法人社会福祉医療機構助成 「発達障害児・者の社会的自立支援体制構築事業」

子どもと保護者の為のワークショップ

ソーシャルクラスメンバー募集



～子どもの居場所づくり・仲間作り～

お子さまがお友だちを作ったり、一緒に遊んだり、お話しすることが苦手だなど思うことはありませんか？

この夏休みよりゲームやグループ活動などを通して、ソーシャルスキルを身につけながら仲間づくりを築いていく—

家や学校・園以外の居場所づくり・仲間づくりを進めていきます。

子どもと共に保護者も遊びながら居場所づくり・仲間づくりを楽しみませんか。

☆☆ 3つの ソーシャルクラスのクラブを計画してメンバーを募集します☆☆☆

対象者 : 奈良県在住の自閉症と診断を受けた子供とその保護者

ゲーム&グループ活動クラブ

定員 : 親子12組

場所 : 日伸体育文化センター

大和郡山市筒井町748 (筒井駅より徒歩3分南へ筒井交番西信号すぐ)

参加費: 1回 500円 (*保険代とおやつ代)

日時 : 7月22日(金) 8月5日(金) 13:20~14:40

9月からは 日曜日 月1回

☆インストラクターは 奈良H A H A H Aキャラバン隊保護者です。

ペアレントメンターによる ピア・トレーニングです。



問合せ・申込先 TEL/FAX 0743-25-4299 (7/20~)

7月19日までは 0744-33-4755 (FAX&留守電へ)

E-mail naraskip@yahoo.co.jp (携帯からもOK)

ゲーム&グループ活動クラスの申し込みは、氏名 年齢 所属 〒番号、住所、電話番号 メールアドレス
をご記入の上FAX、電子メールでご応募ください・

*希望者多数の場合は 主催者で選考させていただきます。ご了承ください。



☆夏休みクラブ

夏休み中の子供さんとの過ごし方を一緒に工夫してみませんか？

構造化された場面で課題をしたり ついでに 夏休みの宿題もす～いすい！

☆奈良県自閉症協会 ペアレントメンター保護者が

一緒にアドバイスをしながら お手伝いします☆

定員 : 1日につき 5組まで (無料・保険には個人加入下さい)

場所 : SKIP 教室 大和郡山市泉原町10-3

日時 : 夏休み中 火曜日と 木曜日

午前の部 10:00~12:00

午後の部 13:00~15:00 *1回ずつ 申し込みが必要です。(お盆期間も候補日になっています)

☆お料理クラブ

ホットプレートや オープントースターを使って1人1人の子供に合わせた課題設定で 楽しく親子簡単クッキング

定員 : 1回につき 4組 (参加費 材料費 保険には個人加入して下さい)

場所 : SKIP 教室 大和郡山市泉原町 10-3

日時 : 夏休み中 水曜日 11:00~13:00

問合せ・申込先 TEL/FAX 0743-25-4299 (7/20~)

7月19日までは 0744-33-4755(FAX&留守電へ)

E-mail naraskip@yahoo.co.jp (携帯からもOK)

氏名 年齢 所属 郵便番号〒 住所 電話番号 メールアドレス

＝ 夏休みクラブ 希望日を書いて下さい。

お料理クラブ

() 8月10日 パンケーキ

() 8月17日 餃子、プチしゅうまい

() 8月24日 プチパイ、ミニ源氏パイ

申し込み後 1週間以内にはお返事させて貰います。

勉強の為の保護者 だけの参加も大歓迎です！！

先生や自閉症に関わってくださっているすべての関係の方のご参加もお待ちしております！！

SKIP 教室 周辺案内図

電車でお越しの方：

JR 大和小泉駅(西口)より奈良交通バス

「矢田山町」行き「泉原南口」停留所よりすぐ。近鉄郡山駅より奈良交通バス「泉原町」行き「泉原町」停留所より徒歩2分

お車でお越しの方：

国道25号線「小泉町西」交差点を北へすぐ

セレミューズ矢田山の北隣り、スーパー「ハッスル」の斜め向かいのビルやきとり屋さんと美容院の2階です。

駐車場もあります。



平成23年度独立行政法人社会福祉医療機構助成「発達障害児・者の社会的自立支援体制構築事業」

特定非営利活動法人 奈良県自閉症協会主催

平成23年度 保護者の為の自閉症理解と生活支援ワークショップ

自閉症として生まれてきた子供と楽しく過ごすために！

ちょっとした工夫をして、ちょっと考えかたを変えてみて・・・

自閉症の子どもをもつ親どうし、一緒に学びませんか？

- 対象者 : 奈良県内在住の自閉症の診断を受けた子どもの保護者
 子どもの年齢は問いません。全10回 出来る限りご参加出来る方
- 定員 : 20名
- 参加費 : 無料 (23年度 助成金対象になり 参加費無料になりました)
- 講師 : 波多野 伸江先生 (臨床心理士)
- 場所 : 奈良県心身障害者福祉センター (田原本)
 SKIP教室 大和郡山市泉原町10-3 (他)
- 時間 : 10:30~12:30

全8回予定 日程表

日時 (田原本)	内 容	SKIP教室での補修日
9月 8日	自閉症って何？	9月14日、13日
9月22日	評価について 我子の事を知ろう！	9月27日 29日
10月20日	構造化って何？ どうして必要？	10月25日 27日
11月10日	コミュニケーションについて その1	11月15日 17日
12月1日	コミュニケーションについて その2	12月5日 6日
1月13日	困った行動？どうしたら	1月17日 20日
2月2日	困った行動？ どうしたら？から 何故？	2月7日 9日
3月2日	まとめ 質問	3月6日 8日

*21年度・22年度の参加者の引き続きの参加も大歓迎です。

更に 実践内容を取入れて計画中！！

*奈良県心身障害者福祉センターの日程で参加出来なかった回は
 補修日を設けて SKIP教室で ビデオ学習等に対応致します。

(補修日参加は事前に連絡が必ず必要です。)

*補修日には 毎回の課題ワークのフォロー等も行います。

*リピーターの方向けの フォローアップ内容も用意しました。

以前のSKIP教室から 大和郡山市泉原町に引っ越ししました。

(地図は裏面に)

支援グッズや 個別課題等のいろんな資料や、自閉症や発達障害の本や

これまでの 講演会ビデオなども置いてありますので

補修日には お時間のある限り 見ていただけます。

実践勉強会、療育クラス案内

2011年度も実践勉強会 療育クラスを予定しています。

メンバーには これまで子供の療育に通いながら実践されてきた保護者も加わり、養護の先生たち、以前の実践セミナーの体験者です。いろいろな形で子供と関わりながらの支援を一緒に進めていきませんか。お待ちしております。

参加資格は 過去に「保護者の為の勉強会」や 奈良県自閉症協会の講演会に参加された方、本年度の「保護者の為のワークショップ」に参加対象にします。【リピーターも可】

療育クラスの予定

☆夏休み特別療育クラス

候補日 8月1日、9日、15日、16日 29日 (2日以上参加可能な方)

☆9月からの 水曜日や 土・日曜日を中心に 子供さんグループに合わせて
日程を調整させていただきます。

参加費 : 無料 (保険には個人加入下さい)

勉強のための保護者だけの参加も大歓迎です。

先生や自閉症に関わってくださっている全ての関係の方のご参加もお待ちしております。

保護者のための・実践とも

問い合わせ・申込み先

問合せ・申込先 TEL/FAX 0743-25-4299 (7/20~)

7月19日までは 0744-33-4755 (FAX&留守電へ)

E-mail naraskip@yahoo.co.jp (携帯からもOK)

名前	年齢	所属
〒		
住所		
電話番号	メールアドレス	
保護者のワークショップ希望	実践勉強会 療育クラス希望 () 夏休み特別クラス () 9月からのクラス	

SKIP教室

周辺案内図

電車でお越しの方:

JR 大和小泉駅 (西口) より奈良交通バス

「矢田山町」行き「泉原南口」停留所よりすぐ。近鉄郡山駅より奈良交通バス

「泉原町」行き「泉原町」停留所より徒歩2分

お車でお越しの方: 国道25号線「小泉町西」交差点を北へすぐスーパー「ハッスル」の斜め前セレミューズ矢田山の北隣りやきとり屋さんと 美容店の2階です。

駐車場もあります。(2~3台)



平成23年度独立行政法人社会福祉医療機構助成 「発達障害児・者の社会的自立支援体制構築事業」

特定非営利活動法人 奈良県自閉症協会 主催

サポートブック作成&グループ相談会 派遣依頼募集

サポートブックは、障害のある人のための支援ツールとして、

保護者が近くにいないときに最低限の安全を守れるように、初めて接する人とよりよい コミュニケーションがとれるようにという保護者の願いのもとに、つくられ始めるようになりました。

必要な個所を必要とときに見て貰うことができるように、障害をもつ子どもの成長にあわせてバージョンアップを行い、保護者がより最新のものへと管理しながら障害をもつ子どもと一緒に楽しみながら作成いたします。その活用方法としては 本人活動の時のボランティアの方に、ショートステイ先の支援員やヘルパーさんに、また 幼稚園や学校の先生方に、さらに 水泳などの習い事のインストラクターや おじいちゃん・おばあちゃんや親戚の方へと 様々な用途に使用できます。

本人と周りの方々とのコミュニケーションを促進し 本人が地域で楽しく過ごすために その意義を理解して頂き、有効に活用できるよう、保護者さんだけでなく 支援者の方のグループも大歓迎です。

☆保護者グループや支援者の団体様からのご依頼を頂けましたら

奈良県自閉症協会ペアレントメンターと奈良H A H A H A キャラバン隊の母が2～5名グループで お伺いいたします。支援や療育の悩みをグループ相談形式でお受けしながらサポートブック研修と作成のお手伝いを させていただきます。

問い合わせ先・申込先 TEL・FAX 0743-25-4299(7/20より)

e-mail naraskip@yahoo.co.jp

ふりがな			
グループ・団体名			
連絡先	TEL/FAX	mail (携帯可)	
	代表者名	男・女()歳	
		会員・非会員	保護者・支援者

研修場所	会場名	参加予定人数	
	住所	人	

希望日時						
第1希望	月	日 ()	時間	:	~	:
第2希望	月	日 ()	時間	:	~	:
第3希望	月	日 ()	時間	:	~	:

希望の返信方法 FAX ・ メール

☆ グループ人数は 何名からでも OKです。(10名以下が 理想ですが ご相談させて貰います)

☆ 申し込み頂きましたら 1週間以内にお返事致します。可能なら メール方法が有難いです。

研修先会場 ; 会場は 申し込みグループ団体様で ご準備をお願いいたします。

ご用意が難しい場合は 当会SKIP教室を 無料でお貸しいたします。

研修費用 1人 基本として サポートブック資料代500円のみ お願いいたします。

研修日時 8月~2月まで 可能な限り 平日 10:00~14:00の間で2~3時間

平成23年度独立行政法人社会福祉医療機構助成 「発達障害児・者の社会的自立支援体制構築事業」

皆さまの地域へ キャラバン隊の巡回公演依頼募集

皆さまのもとへ

奈良県自閉症協会

みんなちがって みんないい



～ 知ってほしいな 自閉症・発達障がいのこと

こんにちは。奈良 HA-HA-HA キャラバン隊です。私達は自閉症の子どもを育てる母親達です。外見からはなかなかわかりにくく誤解されやすい「自閉症」・「アスペルガー症候群」など「発達障がい」とよばれる人達の事を知って頂きたくてこの活動を始めました。

脳の働きにユニークさがある自閉症の人たちの事を「自分の立場」に置き換えて考え理解する事は、なかなか難しい事です。しかし、たくさんの疑似体験を交える事で、少しでも多くの人と自閉症の人達との距離を縮める事ができたらいいなと思います。「困った人ではなく、困っている人だ」という理解があれば、そのユニークさも個性として、「共に安心して生きていける社会」に繋がると私たちは信じています。

『自閉症である事は特別な事ではありません。誰にでも得意な事と苦手なことがあるように、自閉症の人にも出来ることと出来ないことがあります。みんな一人一人違って当たり前なのです。』

そんなメッセージを込めて先生・保護者・児童・支援者、一般の方を対象にお話させて頂いています。

奈良 H A H A H A キャラバン隊 講演依頼先
募集中!!! 日程や 内容等
ご相談させていただきます。



～ 公 演 内 容 ～

自閉症って何？
見え方体験
聞こえ方体験
コイン入れ体験
嬉しい接し方
ひび割れ壺
ぼくたちのせかい
母の気持ち
歌 etc...

保護者の団体、グループ
サービス事業所や施設様へ
幼稚園、学校など 何処へでも
ご依頼がありましたら
ご相談の上 お伺いします。



問い合わせ先 TEL/FAX 0743-25-4299
asj_nara_oomiya@yahoo.co.jp

***** 奈良 H A H A H A 隊メンバーは*****

全て自閉症の子供を育てている母たちです。

不思議な 笑える自閉っ子たちから 元気をもらった母より

***** 皆さまをきらきら星人の世界へご招待 *****

NPO 法人 奈良県自閉症協会 奈良 HA-HA-HA キャラバン隊



ケンケンパより 勉強会のご案内

「感覚統合療法」～普段の生活に活かせる方法～

同時に2つの事をするのが苦手なことがありますか？

(黒板を見ながら板書をするのが苦手であるとか)

教室で先生の声を聴いたり、先生を見たり、いろいろな刺激の中から適切な刺激を選ぶことが苦手だったりしませんか？

リハセンの宮崎先生にお越しいただき、感覚統合療法について基礎から普段の生活(家庭や学校)に活かせる方法を教えていただく予定です。

日時 9月26日(月)

9:30~12:00

場所 大和郡山福祉会館

講師 奈良県総合リハビリテーショ

ンセンター宮崎義博先生

参加ご希望の方は、ケンケンパメールアドレス: info@kenkenpa.orgへ連絡ください。

また、参加ご希望の方へは事前に宮崎先生への質問をお受けしたいと思えます。

宮崎先生にお聞きしたいこと(家で、こういう時にどういう対応をしたらいいの？

家庭や学校で困っていること・・・など)があれば、ケンケンパメールアドレス、またはケンケンパ世話人の吉川(メールアドレス mikana0128@ybb.ne.jp)まで、ご連絡ください。

たくさんの方の参加をお待ちしております。

自閉症児親子療育 レクリエーションのご案内

2011年も子どもゆめ基金の助成を受けることができ、今回は生駒山ろく公園にてバーベキューを計画中です。

日にちは10月中の土、日いずれかで検討中です。

すがすがしい秋の気候の中、思い切り自然を満喫しませんか?! 詳細が決まり次第、絆にてお知らせいたします。

療育部役員一同

「自閉症児・者と共に楽しむスポーツ・体操教室」

6月25日より 始まりました!

昨年度好評につき、今年も継続して「自閉症児・者と共に楽しむスポーツ・体操教室」を開催致します。全6回の1回目がこの6月25日より始まりました。

暑い中 集まって下さった保護者様、元気な子供たち、お疲れ様でした。汗一杯になりながら 皆さん頑張ってくださいました。

前半は木村由子先生のふれあい体操です。音楽に合わせて、体を動かすだけでなく、親子や参加者同士のふれあいを大切に子供たちの良いところを見つけながら、楽しめるよう、心がけて下さっています。みんな、自然に身体を動かす事ができ、のびのびした時間を過ごせました。毎回、市販の遊具ではなくレジ袋、新

聞紙、タオルなど身近にあるものを使っての身体あそびを取り入れて下さっています。今回は 透明の傘袋を利用しての遊びでしたが、ちょっぴり、梅雨の季節を感じる事もできました。

後半のスポーツ教室は 視覚化スケジュールと場所を少し構造化した中、櫻井先生の指導の元、エネルギーに動き回ります。皆が同じ事をする時間だけでなく、自分に合った、やりたい、やってみたい、運動に選択して挑戦できる時間も作って下さり、それぞれ 得意な事を楽しんだり、ちょっと苦手な事を親ごさんたちとやってみたり・・・と 体を思いっきり動かしました。汗だくになりながら、水分補給や休憩しながら、自分のペースで頑張れました。

次回 7月23日(土)は 福祉センタープールで 水泳教室となります。保護者さまの付き添い、よろしく お願いいたします。

3回目 8月28日(日)の場所は 昨年度と同じ県営福祉パーク 2階 多目的運動ホールとなります。



平成23年度 発達障害者就労支援セミナー 申 込 書

申し込み：メールまたはFAX（できるだけメールにて申し込みをお願いします。）

なお、メールにて申し込みいただく場合は、下記の必要事項をご連絡いただくか、奈良県ホームページイベント情報のご案内 http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-2916.htm から申込用紙をダウンロードし、送信してください。

E-mail：compass0803@gmail.com

FAX：0742-93-7712

なら障がい者就業・生活支援センターコンパス

電話 0742（32）5512

※定員を超えた申し込みがありましたら、下記2の連絡先にご連絡させていただきます。

1. 所属先等

2. ご連絡先（TEL）_____

3. ご芳名（ふりがな）・職名等

4. セミナーに期待すること

日本自転車振興会 (全国心身障害児福祉財団補助金) 助成活動

「親子ふれあい療育キャンプ」のキャンプヘルパー募集

奈良県自閉症協会では、日本自転車振興会 (全国心身障害児福祉財団補助金) の助成金の交付を受けて平成23年度「親子ふれあい療育キャンプ」を実施いたします。2日間にわたり、キャンプのお手伝いをしてくださるキャンプヘルパーを募集いたします。

実施期間：2011年8月6日(土)～7日(日)

実施場所：大阪市舞洲障害者スポーツセンター「アミティ舞洲」

大阪市此花区北港白津2-1-46

費用：無料 (傷害保険についても当支部で負担いたします。)

交通手段：近鉄八木駅・近鉄奈良駅より、貸切バスで往復します。

(自家用車や電車を使って現地集合されてもかまいません。)

本キャンプの活動の特色：

本キャンプは、参加する子供の自然体験の場であるとともに、自閉症の障害特性を実践的に学びあう場とする。専門家の指導の下、自閉症に特化した療育法、構造化した環境整備の実際を体験する。このキャンプの参加者が、活動を通じて自閉症児者の社会的自立と社会参加のための支援環境作りのあり方を考え、自閉症の理解を深めることを目的とする。

日程 (予定)

一日目 8/6 (土)

10:30 近鉄八木駅発～近鉄奈良駅 (貸し切バス)
12:00 アミティ舞洲到着
12:30 昼食
13:30 始まりの会・集団活動 (音楽遊び)
14:30 選択活動 (プール・散策・環境工場見学・
マグカップ絵付け体験・プレイルーム)
17:00 オリエンテーリング
18:00 夕食
19:00 入浴
21:00 就寝

二日目 8/7 (日)

7:00 起床 洗面 更衣
7:30 朝の会
7:45 朝食
(部屋の片付け) 荷物移動
9:00 選択活動 (プール・散策・ボーリング・
プレイルーム)
11:30 昼食
13:00 出発 (貸切バス) 近鉄奈良駅～近鉄八木駅

申し込み問い合わせ：林 みどり TEL/FAX：0742-23-6543 e-mail：hayashimido@yahoo.co.jp

締め切り：6月25日(土)

●多くのご参加をお待ちしております。

●7月10日(日)大和郡山社会福祉会館で行うプレキャンプにも、ご参加をお願いいたします。

プレキャンプとは、本キャンプ前に主催者・参加者が一堂に集まり、キャンプの概要の確認や担当児童との顔合わせをします。

発行人：関西障害者定期刊行物協会

住所：〒543-0015

大阪市天王寺区真田山2-2 東興ビル4F

編集人：河村 舟二

定価：100円